



Bーぐる沿線協議会ニュース

第14号

平成 28 年 1 月発行 Bーぐる沿線協議会事務局 区民課庶務係（コミュニティバス担当） 03-5803-1387

平成 27 年 12 月 8 日に沿線協議会が開催され、平成 27 年度上半期のBーぐるの運行実績の報告と多言語化に対応した停留所のデザイン案が検討されました。

目白台・小日向ルートは 10%増加、区の公的支援の基準も達成見込み

最初に、事務局から平成 27 年度上半期の運行実績に関して、「千駄木・駒込ルートは 1 日当たり 1,436 人で約 1%の微増となっており、近年の安定的な運行状況を表しているといえる。11 月からは新型車両が導入され乗車定員も増えたことから、乗車人数の増加につながっていくことを期待している。また、目白台・小日向ルートは 1,270 人となり前年比で約 10%増加したなど増加傾向が継続している。このペースでいけば一日一台当たり 300 人の基準も達成可能」と報告されました。

コミュニティバス1日当たり乗車人数(4月～9月)

単位：人

		千駄木・駒込 ルート	目白台・小日向 ルート
平成 25 年度		1,392 (348)	1,060 (265)
平成 26 年度		1,420 (355)	1,150 (287)
平成 27 年度		1,436 (359)	1,270 (317)
増 減 率	25→26 年度	+2.0%	+8.5%
	26→27 年度	+1.1%	+10.4%

※（ ）内数字は、1 日 1 台当たりの乗車人数

停留所デザイン案について活発な意見交換

文京区では、今後 2020 年の東京オリンピック・パラリンピック開催に向け、訪日外国人旅行者の増加が見込まれることから、区内公共施設の英語表記を進めています。Bーぐるの停留所も老朽化が進んできたことから、区ではこれにあわせて板面表示の刷新作業に着手しているところであり、今回沿線協議会の委員からも改善に向けた具体的な意見が出されました。

元田会長からは、「最初に停留所で提供すべき情報の取捨選択が必要。入れすぎると読みきれないし、少なすぎると用をなさない」との意見が出されたほか、「使用する文字の大きさは高齢者にも読みやすい大きさで」、「各施設の名称について、英語かローマ字か、表示の仕方を統一する必要がある」との意見が出されました。

さらに、どのような案内であれば利用しやすいか、特に初めてBーぐるに乗る人が戸惑わずに乗車でき

停留所デザイン案に関する各委員の意見(主なもの)

- ①ルート図
 - ・ Bーぐるマップの掲載されているルート図に、英語表記とバス停番号を入れる
 - ・ 乗継情報（どこで/どこ行き）をわかりやすく
- ②運賃
 - ・ 「100 円」、「前乗り前払い」、「ICカードが利用できます」の英語表記
 - ・ 一日乗車券、回数券が車内で買えます（現金のみ）の日本語、英語表記
- ③相互乗継
 - ・ 乗継と相互乗継の区別、方法を簡潔に説明
- ④時刻表
 - ・ 屈まなくても見える、見やすい高さで
 - ・ 文字の大きさ、夜間でも見やすい色づかい
 - ・ （本数が少ないので）余白の有効活用

るという視点から、「100円」、「前乗り前払い」、「ICカードが利用できます」は英語表記が必要など、多くの意見が出されました。

また停留所名の「1 文京シビックセンター（春日駅前）」と「7 春日駅」のように、同じ名前が2ヶ所出てくると区外の人にはわかりづらいといった

意見や、各停留所のアルミフレームの側面にバス停名を表示しているKバス（北区）の事例の紹介などがありました。

区では、今回出された意見や提案をもとに次回の沿線協議会で最終案を示し、今年度末に停留所のデザイン案を確定していく予定です。

今年も盛況だった 夏休み！親子Bーぐる洗車ツアー

饗場委員と鈴木委員から、企画会議の活動報告がありました。まず、千駄木・駒込ルートで放送中の地域情報番組（Bーぐるチャンネル）では、子育て支援・高齢者の生きがいづくり・国際交流・防災をテーマに沿線地域の様々な方面で活躍する人々にスポットを当て、現地での交流をもとに活動を紹介しており、昨年度同様、跡見学園女子大学マネジメント学部の学生との協働で番組制作を進めている」とのことでした。

また、今年2回目の開催となった「夏休み！親子Bーぐる洗車ツアー」には、抽選で選ばれた14家族43名の参加者のほか、今回は東京ケーブルネットワーク（文の京ウィークリーニュース8/10～放送）の取材、沿線情報番組Bーぐるチャンネルの制作で協力を得ている跡見学園女子大学の学生も参加し、にぎやかなイベントになったとの報告がありました。

報告は文の京ウィークリーニュースを見ながら行われ、「真夏日の炎天下で気を遣ったが、無事にイベントを終ることが出来た。小さな子供たちが笑顔ではしゃぎ回る姿を見て、



自分たちまで楽しい気分になった。全面的に協力していただいた日立自動車交通(株)に感謝している。」と感想を述べました。

最後に、企画会議のメンバーが中心となりBーぐる友の会のホームページを開設したとの報告があり、イベント等の情報発信とメンバー募集に活用していきたいと抱負を述べました。



編集後記

Bーぐるの停留所の英語表記に向けて、各委員から活発な意見が多数出されました。次回会議での検討を経て最終的にどのような形になるのか、とても楽しみになってきました。企画会議メンバーの発案で生まれた洗車ツアーは今年も盛況だったそうです。こうした活動を通じてBーぐるがもっと親しまれる存在になればと願っています。(N)